



THE MAGIC OF ROTARY

クラブ週報

五城目ロータリークラブ

○ クラブ広報委員会

(本年度第6回例会)

◎ 四つのテスト

第2768回例会

令和6年8月29日(木)

午前 12:30~



☆ 点鐘

◎ ロータリーソング : それでこそロータリー

◎ 会長の時間 : (今村会長)

・皆さんこんにちは。夏が終わろうとしています、最近では9月10月になっても暑い日が続きます。それで、9月に入ると、4クラブ合同例会、交通安全キャンペーン、学童野球大会と続いて、11月には地区大会が大曲であります。コピーを配ってありますが、この第2540地区は、五城目ロータリークラブが創立した時には、第352地区でした。東北6県がその地区でした。直後の新年度が始まって、1965年7月には、第353地区になって、秋田、山形、宮城の3県が353地区となった。その後いろいろ変わりましたが、次の機会に話したいと思います。その当時の会員名簿がありませんので、裏の写真を見てそれぞれ思い出してみてください。分かるところを、後日コピーして来ます。今日は畑澤会員のスピーチがありますので、会長の時間は以上です。

☆ 幹事報告 (八木下幹事)

*北区分協議会の案内。日時9月21日(土)大館市北区コミュニティーセンター。14時~16時。出席は会長、幹事、拡大委員長。出席は後日。*交通安全キャンペーンは五高IACより、返信待ちです。*学童野球親善交流大会は日時10月12日(土)五城目小学校グラウンド。参加校は五城目、八郎潟、大潟の3校。*9月の第一例会は9/5です。

返信 9月30日(月)午後3時30分 地藏尊前・集合

☆ 会員スピーチ (畑澤会員) 《矢田津世子没後80年》 (資料配布)

・ちょうど今年「矢田津世子没後80年」ということで、これまでいろんな所で秋田魁新報にも、今も日曜日に連載されておりますので、その事も含めながらご紹介させて頂きたいと思っております。矢田津世子について纏めて載せてあります。これは小中学生用に小野一二先生が副読本として紹介したものです。いま町のホームページには、これが出ていますので、あとでご覧になって頂ければと思います。非常に良く簡潔に纏めて頂いております。矢田津世子がいろんな意味で五城目町を紹介していると書かれております。矢田津世子のいろんな作品の中に五城目町がたくさん出て来ます。8歳までしか居なかったのですが、良くこういう風に覚えているなど感心したりもしておりますが、それだけ五城目町への思いが強い人だったと感じているところです。矢田津世子の生家ということで、五城目町誌に載っている昔の地図がありますが、明治42年頃ということで、古川町の地図に載っています。矢田助役となっております。向かい側に彦兵衛酒造と言う事で、福祿寿が載っています。それから作品にも出て来ますが、彦兵衛さんの角の所に「不動尊」がありまして、その不動尊の所でも遊んだという記述がたくさんあります。如来寺とか新畑町の了賢寺という所、そこもよく作品に出てきます。了賢寺の所に池がありますが、五城目小学校の境の所の池です。今回未発表の作品という事で、「みぞれ」が出て来ますが、その「みぞれ」の中に了賢寺の池の所で今でいうと「動物の虐待」めいた所が冒頭に出て来ます。本当に了賢寺とか不動尊とか如来寺とか、矢田津世子にとっては遊びの場であったということが、作品にも出て来ます。その記述の部分が「稚き日のアルバム」というのがありますが、随想「稚き日のアルバムから」という所を見ると、「町には古寺と新寺があった、古寺は新寺よりは長い歴史を有ちお詣りも多かった。」了賢寺の事は魁新報にも写真が載っていますが、了賢寺の裏庭には大きなぐみの木があったとか、そういった所も出て来ます。それから「ふるさと五城目町」のことを書いてあります。『秋田は私の古里である。生まれたのは市から10里あまり離れた五城目とい

う小さな町で、いまは一日市から軌道が通じているけれど、その頃は幌馬車とか箱轎が何よりも贅沢な乗物とされていた。』と書いてあります。上の段の最後の方には、「家は不動尊に近い古川町にあって・・・とか、家の前は彦兵衛さんという酒屋の黒塀になっていて、ここは四ツ車大八の出た家として知られていた。」それから「仲町には古い井戸があって、酒屋の徳太郎さんの酒も彦兵衛さんの酒もこの井戸の水で出来るとい話をきいた。」とも書かれております。下の方には「子供たちの遊び場は、古寺、新寺の境内や、お不動様の高い縁の下などである。」こういう風に幼きころのことを良く思い出して書いてくれていると思ったりしております。それから、随想「春の湖」ということで、森山のこともかいてあります。『私の郷里、秋田の五城目には森山といって、小松や雑木の僅かばかりみえる俗にいう坊主山があるけれど、この山の頂からは八郎潟が手にとるように見える。子供の時分、私たちはよく山へ登った。潟を見に行くのである。秋の晴れた日、潟は青く澄んで、眼に近ちかとみえる。私たちは、そこに浮ぶ漁船を数えることも出来た。それから春のこの季節、潟は淡霞むんで、紗をとおしたように、はてしなく縹渺としてみえる。時折、きらりと湖面が光って、私たちは、「鏡だ。鏡だ。」と歓声を上げる。』ちょうど森山の第二高地から見れば、八郎潟はこれと同じように、いまも見えるかなと思ったりしております。私はこの文章が大好きですが、森山が良く書かれていると思っています。それから作品の中に、柳谷先生が出て来ます。「茶粥の記」の6の所を見てください。その下の段に、『その赤髭の老校長だけだった。「五城目が駄目だったら馬川か飯田川の学校へたのんでみるつもりでしたけれど・・・飯田川には、私がいた頃の先生方もまだ大抵残っていますよ」清子は結婚前その飯田川の小学校で代用教員をしていた。』そういう記述があります。その他に、「鴻ノ巣女房」というのがありますが、飯田川の校長先生には「赤髭コ」という諱名が付いていた。五城目小学校の歴代校長を見たら、確かにありました。そういう事も書かれてありました。それから、この後出てくる原稿については

早世の芥川賞候補



矢田津世子 1907～1944年。本名・ツセ。東京の女学校を卒業後、銀行勤務を経て創作を始める。芥川賞候補「神楽坂」は、選考委員の川端康成から「真に手鞠麗かな人」と評された。作家の坂口安吾が愛した女性としても知られる。結婚で亡くなった。

矢田津世子 未発表小説

昭和初期に活動し、芥川賞の候補となるが、早世で未完となった五城目出身の作家、矢田津世子の未発表小説「みぞれ」の存在が確認された。ある家のゆかりの人物を描き、表裏の時代を映し出した人々の心理を繊細に描き、その時代の暗黒を照らす。昭和初期の作家、矢田津世子の未発表小説「みぞれ」の存在が確認された。ある家のゆかりの人物を描き、表裏の時代を映し出した人々の心理を繊細に描き、その時代の暗黒を照らす。昭和初期の作家、矢田津世子の未発表小説「みぞれ」の存在が確認された。ある家のゆかりの人物を描き、表裏の時代を映し出した人々の心理を繊細に描き、その時代の暗黒を照らす。

3回芥川賞の候補となるも36歳の若さで亡くなった五城目出身の作家、矢田津世子の未発表小説「みぞれ」の存在が確認された。ある家のゆかりの人物を描き、表裏の時代を映し出した人々の心理を繊細に描き、その時代の暗黒を照らす。昭和初期の作家、矢田津世子の未発表小説「みぞれ」の存在が確認された。ある家のゆかりの人物を描き、表裏の時代を映し出した人々の心理を繊細に描き、その時代の暗黒を照らす。

この後委員会としては、「矢田津世子没後 80 年記念・特別展」を開催したいということで、10月頃五城目町でやりたいと思っている所です。それから、「ふるさと作文」ということで、小中学校に作文を募集していきたいと思っております。矢田津世子のように「ふるさと（資料配布）への思い」を作文にしたものを募集したいと思ひます。県立美術大学の先生が短編映画を作っておりますので、それと合わせて講演をお願いしたいと思っている所です。それから、矢田津世子の未発表の作品が結構多くあって、未発表として「みぞれ」と一緒にどれを載せるかということで、高橋秀晴先生と検討している所です。出来た折には、今まで通り五城館で販売したいと思ひています。今回を契機に五城目町に矢田津世子のファンやいろんな人から来て頂ければありがたいと思ひております。よろしくお願ひします。以上です。

☆ 出席率報告

〔出席報告〕	12名中	6名出席	50%
事前メーク	0名、申告欠席	6名、病欠欠席	0名

【例会場】  グリーンロイヤル丸富
〒018-1706 五城目町字下夕町 248
Tel018-852-2140 Fax018-852-4049

☆ 点鐘（午後 1：30）